



## 第 64 回 江崎玲於奈氏の言葉

2023 年 12 月 3 日（日）の東京新聞 12 面に江崎玲於奈氏へのインタビュー記事が掲載されました。江崎氏は 1957 年にトンネル効果を発見し、その功績により 1973 年にノーベル物理学賞を受賞しました。受賞から 50 年を記念してこのインタビューが行われたとのことでした。

受賞の評価対象になる成果を挙げた年から実際に受賞するまでには 20～30 年かかるとのことですが、ここでは日本人の研究力などについて江崎氏の考えがいくつか述べられています。その中で研究に必要な創造力を高めるため、1994 年以降江崎氏が提唱しているのが「ノーベル賞を取るため、してはいけない 5 カ条」です。次の表はそれらを記事からそのまま転載したものです。

第 1	今までの行き掛りや、しがらみに捉われてはいけない。既成概念を超えるところに発見のチャンスがある。
第 2	大先生を尊敬し、教えを受けるのはよいが、過度に心酔してはいけない。自由闊達な自分であってこそ独自の創造力が発揮できる。
第 3	情報の大波の中で、自分に無用なものまでも抱え込んでいてはいけない。取捨選択し、役立つものだけを選定する。
第 4	自分の主張を貫くため、戦うことを避けてはいけない。
第 5	いつまでも初々しい感性と飽くなき好奇心を失ってはいけない。

江崎氏は上記のうち特に第 4 に触れ、「何か新しいことをやろうと思っても、『そんなことはやってもつまらない』と言われることがけっこうある。そんなときは自分の主張を貫くため、しっかりと戦わないといけない」と述べています。

私の経験と照らし合わせると以上の 5 カ条はきわめてごもつともです。私もこれらと類似の指摘を過去の「忘れえぬ言葉」に記しています。それらは第 1～4 に該当し、次のようになります。

- 第 1 23 「趣味と個人研究」の言葉
- 51 「手作りのアジュール」の言葉,
- 57 「フォン・ノイマンの生涯」の言葉
- 62 電機産業の凋落の言葉
- 第 2 2 国際会議のプログラム委員会にて
- 24 鶴見俊輔の言葉
- 55 「ある知財法学者の軌跡」の言葉
- 57 「フォン・ノイマンの生涯」の言葉

- 第3 62 電機産業の凋落の言葉
- 第4 6 雑誌「致知」の言葉
- 7 「技術大国・日本の未来」の言葉
- 11 和田秀樹の言葉と「ガリレイの生涯」
- 14 M. ファラディと J.C. マクスウェルの言葉
- 18 「Mr. トルネード」の言葉
- 20 熊谷守一の言葉
- 27 「ブラックホールを見つけた男」の言葉
- 38 (続) 鶴見俊輔の言葉
- 46 「奇跡の地図を作った男」の言葉

この中で、第2, 4の項目数が多いのは、私自身も独創的な研究をするためにはむやみに権威に寄り添うのではなく、独自の考えで進むこと、その際の保守的な批判に打ち勝つのが大事であると感じたからです。思い起こせば昔、私が近接場光の研究を始めた当初、ある偉い先生から「何て変なことをやっているのだ。そんなことは欧米ではやっていないぞ。」と言われました<sup>1)</sup>。しかし自分の信念に従って研究をつづけて成果を得、それをドレスト光子の研究へと発展させた後には、別の偉い先生から「実は私も昔は近接場光について考えたことがあってね。」と言われるようになりビックリしました<sup>2)</sup>。ご当人はその当時、実際に研究をやっていたのかどうか、証明する資料は提示しませんでした。このように後になって便乗する人たちが世界で5人以上現れると、その研究は確立したと考えてよいとのこと。つくづく研究を中断しなくてよかったと思います。

---

1) 大津元一、「ドレスト光子はやわかり」、丸善プラネット、2014年3月、41ページ。

2) 同著 63ページ。